

すぎなみソーシャルデザイン塾～すぎなみをデザインする社会起業家になる

第3章　　すぎなみブランディング　～すぎなみの固有価値を掘り起こしデザインする

07年2月21日　　すぎなみブランディング　その5

テーマ：　すぎなみデザイン交流会　個人・グループ提案プレ発表

学習支援者：(株)三井物産戦略研究所　新谷大輔さん

はじめに

06年度の大人塾は、2月24日(土)から行われる昼コース・夜コースの合同発表会を残すだけとなりました。前回に、「すぎなみソーシャル・デザイン塾提案シート」を作成していただくように宿題を出しています。本日は、事前に宿題を発表したいとの希望を寄せられた篠原明さんに登場していただきます。

篠原明さんの提案

テーマ：「明るく、元気な町作り、散歩と自転車で楽しむ杉並」

導入部

元気な町はどんな町ですか？

- ・中高年が(50歳台以降)はいき生いと暮らしている町
- ・中高年にやさしい街は子どもにもやさしい
- ・住民がホットする安心なまち
- ・昔懐かしい隣組的な助け合いがある、助け合いは誰でもできることが多いので、助け合いを「小さなビジネス」と捉えたらどのようなデザインが描けるのか
- ・助け合いは中高年が自信を持ち元気に暮らせる要件なる

では、中高年の活動はどのようなもの？

- ・孫の世話から趣味を楽しむ。近隣、周辺の社会活動をする
 - ・働く喜び、たとえ僅かでも収入があると暮らしを楽しむことができる
 - ・それほどお金は要らない、むしろ地元の人、子どもとのコミュニケーションを望む
 - ・ビジネス・スキルがない人たちには誰でも利用できる経営資源の仕組みを作ること。仲間と得意分野のスキルを持ち寄る。スキルを誰に、どのような、どこで提供できるか
- このような考えから三つの視点を検討してみる。

小さなビジネスをつなぐ

小さなビジネスとはこのようなものをイメージしています。

イメージの事例

人に教える仕事（お茶、お花、音楽、語学、料理、ヨガなど）

手打ちそば屋、ラーメン屋、あんパン屋、リサイクルショップ、アンティーク、お茶のみ場、話を聞く屋、一時託児所、犬の喫茶店、犬の美容院、犬の一時預かり屋、有料庭園（庭の開放）、故郷の名品販売、私設図書館、子育てサポート隊、お掃除サポート隊、小学生集会所、有料駐輪場、昔懐かしいおもちゃ屋、駄菓子屋、休憩所、犬の散歩屋、動物一時預かり屋、便利屋、私設クラシアン、簡単修理屋、素人大工、介護旅行屋、散歩屋、PC出張屋、病院送迎屋、地域バザール屋、昔の知恵屋、健康屋……

- ・どんな人でも何か取柄はある
- ・人の役に立つのは楽しい
- ・一寸お小遣いがあればいいな
- ・皆で助け合い、皆でつながり、皆幸せに
- ・最も小さなビジネスは競合も少ない。ニッチの中のニッチな市場を創造する、サラリーマンを経験した方々ならビジネスの基本は理解している
- ・資金は自己資金の範囲内で可能(お金より智慧)

このような小さなビジネスをつなぐ。統合する組織と人があればお客様のサポートやサービスが可能になり中高年が明るく元気になるのではないかという仮説です。

小さなビジネスの環境整備です。

情報のポータルサイト基盤をつくること

- ・杉並区内に小さなビジネスのつながりをつくる(リアルの場合)
- ・小さなバーチャルなビジネスを展開できるポータルサイトをつくる
- ・バーチャルの中で、小さなビジネスを見つける楽しみを実現する

以上のファクターを後述する「散歩と自転車で楽しむ杉並」コンセプトの中に組み込む。

環境保護を考えて自転車をキーファクターにする

- ・安全に走れるインフラ整備が必要とする

(ア)散歩・自転車道の整備(実験できる自転車道路を整備することから始める)

サイクリングNPO等からの支援

(イ)貸自転車(乗り捨て自由)

ストップ&ライド駐車場と貸自転車ネットワークをつくる

(ウ)駐輪場の整備(綺麗な商店街をつくる)

(エ)区民が参加で花、緑を増やす(花咲かせ隊ネットワークを広げる)

公園だけが散歩じゃない(自宅等の庭の開放)

(オ)ボランティアで公園整備、防犯・防災と同列の扱いに

(カ)文化財、緑の保存区民協定が可能か

(キ)公道を利用したバザールの許可

散歩と自転車で楽しむ杉並コンセプトマップ(5ページに絵図あり)

「自分の10年後」の姿と「綺麗な町を残したい」との思いでこのアイデアを纏めました。

JR線

高円寺駅周辺はサブカルチャー、若者の町、安いものなら高円寺

阿佐ヶ谷駅周辺は七夕、ジャズの町、緑の中杉通り、中年向けの品物がある

荻窪駅周辺は文化芸術の町(クラシック)、ラーメンの町、大きな商圈

西荻窪駅周辺は骨董、古着、古本屋さんの町

このように、中央線沿いの各駅を考えても町の雰囲気は違います。自転車を活用して情報と人々を自由に往来させてしまうことを考えました。

- 若者、古着屋の町高円寺からアンティーク、芸術の町、西荻まで散歩、自転車で楽しめるエリアにする。直線にして44キロの距離です。自転車なら1時間単位で自由に圏内をストップ&ライドできる。また、善福寺川遊歩道を活用して家族で楽しむコースを入れ込みたいと考えました。

- ・各駅沿いの大きな商圈に「小さなビジネス」を混ぜることにより大きな杉並商圈を作り出すアイデアです

- ・統合により認知力、集客力を高める戦略を立てやすくなる。商店・企業・NPO等との協働が始まる

- ・散歩・自転車で楽しみながら「小さなお店」を発見。出会いの楽しみを演出！！

- ・散歩、自転車コースを整備(文化財、公園、小さなお店)杉並区に住んでいるなら自動車は要らないというぐらいの発想です、次世代対策です

- ・リアルとバーチャルで地図および情報を提供する仕組み

サイト上でも地図上を散歩する

- ・生活情報もご提供(公共、病院、支援組織、NPO等)

- ・区外のお客を集客(ストップ&ライド 緑地公園に乗り捨て自転車を置く)

- ・商圈内を自由に移動する(散歩コースをたくさん設定)、商店街の活性化！！

- ・高円寺のお客を西荻へ

将来のことを考えると「歩く道」と「乗り捨て自転車」の整備が必須の投資となる、

高齢者への本当のサービス提供となる。

■ 資金はどのようにして確保するのか試案

- ・ 計画に賛同の商店、飲食店、小さなお店から会費をいただく
- ・ 小さく初めて大きく育てる
- ・ 先ずは 100 件の小さなビジネスを確保する、実績が上がれば増えてくる
- ・ ポータルWEBサイト上に広告
 - グーグルアースも利用
 - 各商圈をポータルサイトに
- ・ 企業との協働にて（地域内、地域外）
 - 自転車、シューズメーカー、地図会社、道路整備等の協力を得る
- ・ スーパー、コンビニ、金融機関、IT企業等区内に散在する会社へのアプローチ
- ・ 区民の寄付（結果が見えれば集まる）

■ プロジェクトチームを組成

- ・ 行政が動けば、商店会、小さなお店等の代表者で組織化する（行政は裏方に）、順次必要に応じてステークホルダーを組織化する
- ・ 最初は賛同者で組織する
 - 商店、小さなお店等から賛同者
- ・ WEBサイトの立ち上げ
- ・ 小さなお店の立ち上げ
- ・ 一人でもライフワークで可能なものを集める
- ・ WEBサイトだけでも運営可能

■ 将来は

- ・ 毎月一回、ノーカー日を設定する
 - まずは賛同者を集めて先駆的な実験をしたい
- ・ 杉並区内すべてで実施施策を作りたい
- ・ 緑あふれた美しい町づくりに寄与
- ・ 区民参加のプロジェクトへ発展させる
- ・ 区民が商品・サービスの提供者、区民が消費者
- ・ 区民が散歩、自転車を楽しむ日
- ・ 各地の自治会でバザールの日

■ 成功の可能性

- ・ 町が綺麗になることは皆賛成！ 成功は見え出すと、ごみ、環境などの解決策が

浮かんでくる

- ・杉並のブランド強化が企業ブランド、企業イメージ等により影響をもたらす
- ・小さなビジネスが成功すれば商店主に波及する
- ・行政の成果として評価される > 投資 + 区民へのメッセージ
- ・中高年にとって生活上の意識改革と活性化は図れる、元気になれば医療費削減につながる
- ・参加者自身はビジネス・スキルを習得でき、実利も得られる
- ・最大のメリットは参加者と協力者である。人の繋がりによるネットワークが広がり、様々な成功体験が得られる

終わりに、好きな言葉です。

Pay me now

Pay me later !!

参加者との意見交換

1 どこから手をつけるのか？

- ・自分のビジネスの協力者と手をつなぐことから始める、杉並区等にプレゼンも可能
- ・インターネット上に小さなビジネスを入れ込んだ地域マップをつくる
- ・情報を集めるために区民参加型(書き込み)にする、口コミは大事で広がるが、隠したい、しゃべりたいという人もいることを理解する。
- ・口コミが成功する要件は
自分の商店の売りは何か、対象はどこなのか
感動させる仕組み
感動して帰ったお客様が人に口コミで伝える時、お客様に「どのような情報」を提供するのか
- ・きれいな町をつくりたい、市民参加型にする、環境悪化を後世に残していいのか
きれいな町を子どもに残したい

新谷さんのコメント

観点は三つある。

- ア) 情報をポータルで届ける
- イ) 車の代わりに自転車がある
- ウ) 小さなビジネス

- 1 下記のコンセプトマップが面白い、JR・中央線高円寺から西荻窪まで地域に小さなビジネス情報を掲載しているものがないのでポータルWEBサイト上に情報を網羅する(バーチャル)こと並びに自転車で行き来するインフラの整備(リアル)を

すれば、情報と人が東(高円寺)から西(西荻窪)へ、南(井の頭沿線)から北(西武沿線)、杉並区の東西南北に流れていく

杉並区の商圈を自転車によりワイド化することになる

シニアは大きな利益はிரらない、何かをしたいという人だとすると、小さなビジネスで十分であると考えられる。

高円寺から西荻までの各地域の情報は分断されていると仮定すると自転車により情報が交錯する。そこで、地元の人々とコミュニケーションを取れる場を提供することをすれば、シニアから子どもまで楽しめる町が実現する

地域と行政資源を生かしたビジネス術の仕組みづくりができないか、例えば、行政施設に広告看板を設置できるような規制緩和を考えた上で街づくり広告収入を確保する方策を検討する、小さなビジネスを盛り上げる仕組み・制度作りが可能となると面白い

すぎなみ学倶楽部サイトの情報は相当なボリュームとなっているので、「小さなビジネスの活用場」としてもよい

散歩と自転車で楽しむ杉並コンセプトマップ

